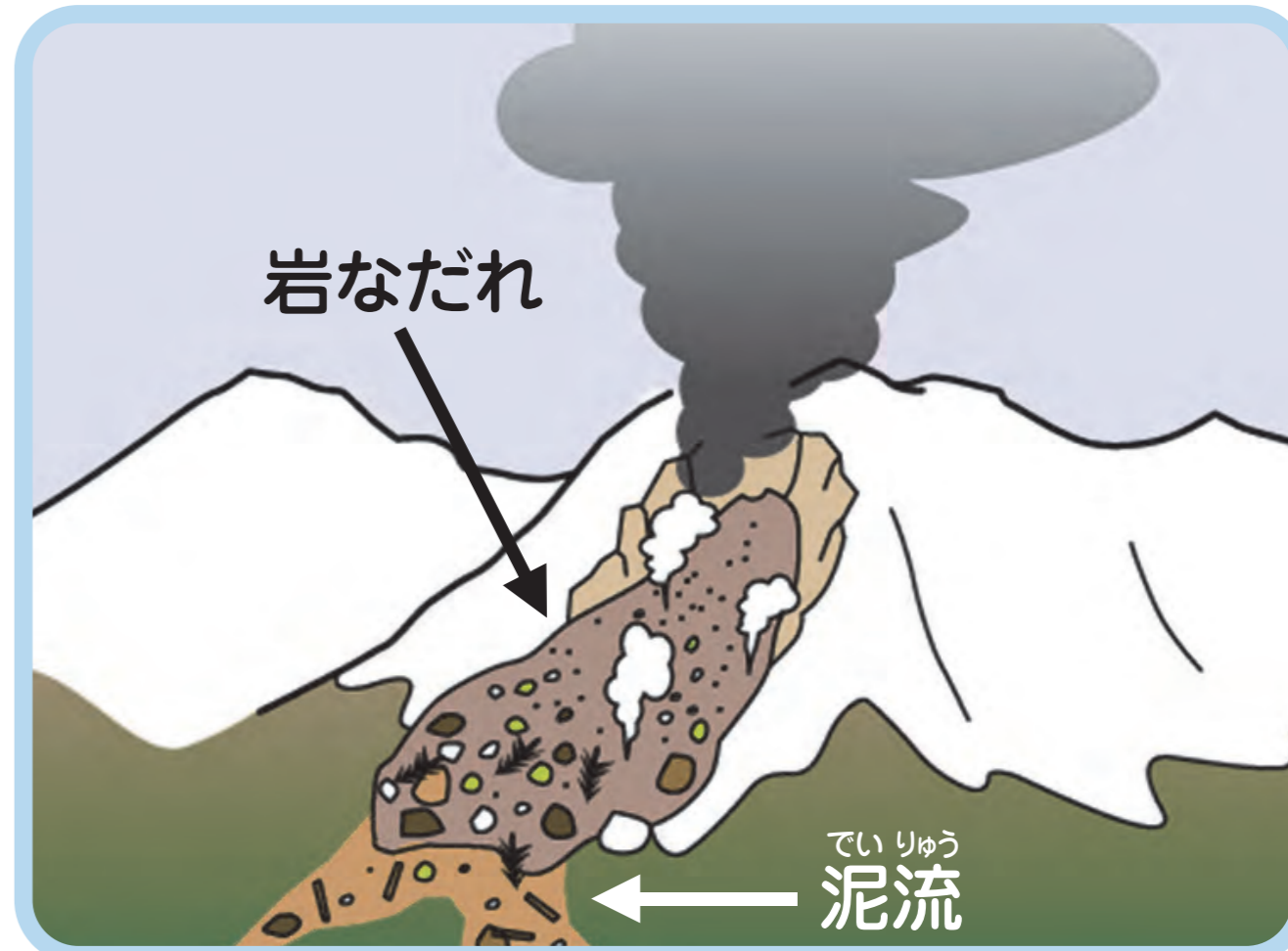
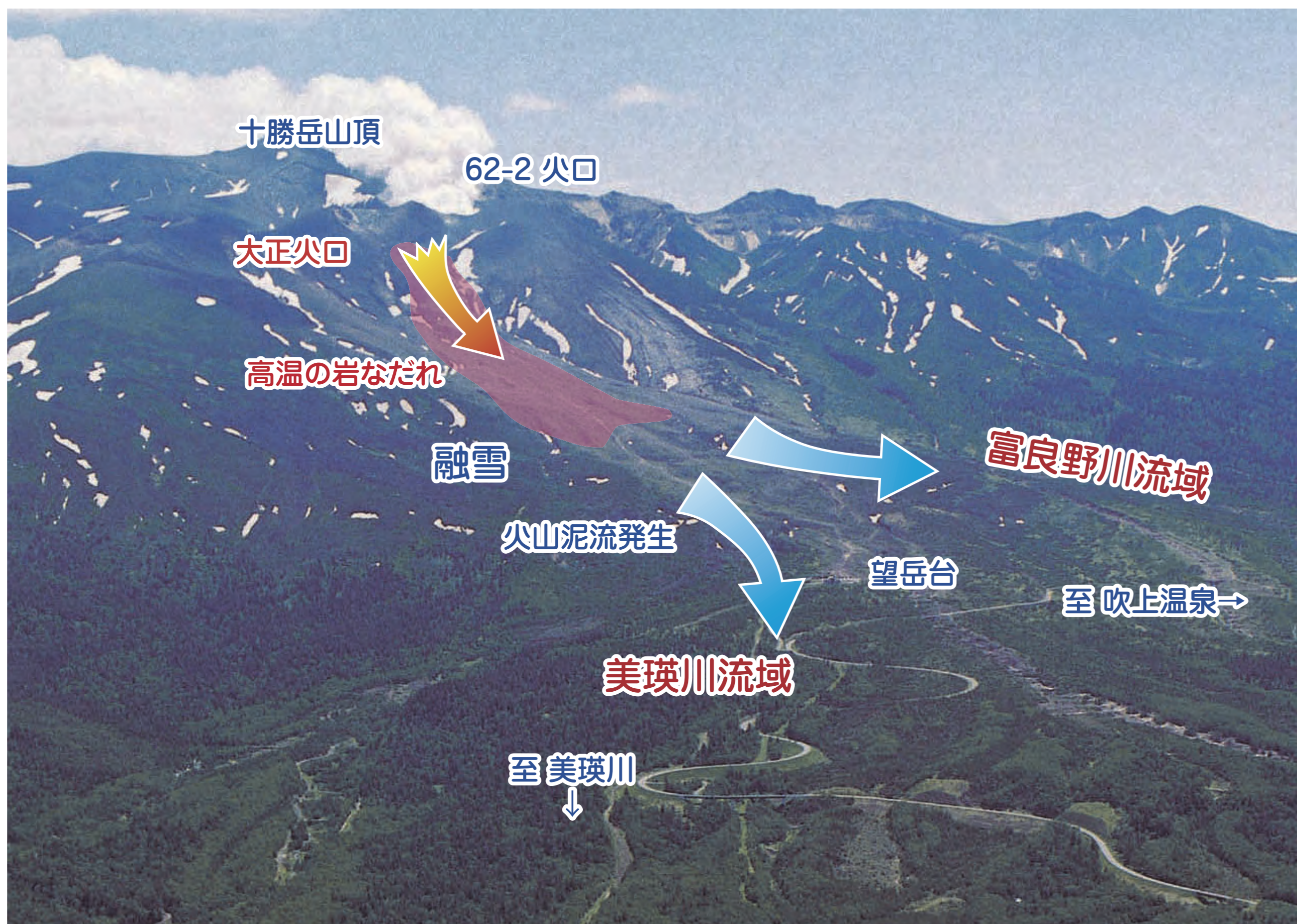


# 十勝岳で発生した大正泥流

The Taisho Mud flow which happened at Mt. Tokachi.

1926(大正15)年5月24日午後4時17分、十勝岳が噴火して山の一部分が崩れ、高温の岩なだれが起きました。岩なだれは残雪を溶かし、すぐに火山泥流が発生して、富良野川と美瑛川に分かれ、ふもとの街までおよそ25分で流れていきました。火山泥流の量がたいへん多く、川から溢れて周りに氾濫し、大きな災害になりました。



泥流は、森林を破壊し、たくさんの流木と上流の土砂を取り込んで破壊力を強めていきました。ふもとの街一面が流木の海のようなになるなど、大きな被害となり、144名の方が亡くなったり 行方不明になったりしました。



流木の海となった上富良野市街地  
大量の流木が泥流の破壊力を強め、多くの家押し流し、田畑をつぶしました。



大正泥流通過直後の様子

写真提供：東京大学・多田文男教授（当時）



恐ろしい泥流の力

泥流の力は線路をめくり上げるほど強いものでした。

旭川絵葉書倶楽部作成の絵葉書による

【この地図は、国土地理院発行の20万分の1地勢図(旭川)を使用しています】